

# 埼玉経済

## サイ・エス知と技の発信

【324】

### 埼玉大学・理工学研究の現場

■犠牲はいつも弱者  
 ミャンマーの最近の話題として、現政権軍とラカイン州の一部に定住するロヒンギャ族とのいさかいが大変深刻になった。これは



ふじの たけし 67年生。96年3月埼玉大学大学院修了。博士(学術)。04年4月から現職。専門は水環境学。NPO日本ミャンマー交流協会評議員。

## 正しい水質情報の普及へ

藤野 毅 准教授



ージが定着している。孤児が非常に多く発生し、孤児は善良なお坊さんによって寺で育てられ、そこで国語や算数も学ぶ。もし、寺に

拾われなければ、反政府の軍人に育てられるとも聞く。民主化から6年半が経つが、犠牲を被るの女性や子どもたちであることに今も変わりはない。

### ■水質評価は正しいか？

同国の基盤は農業であり、生活者・労働者は湖沼や河川と密着して過す。近年は未処理の生活排水の放出と気候変動や、森林伐採の影響を受けて、良質な水の確保が難しくなっている。そこに水質を調べる慣習はない。そのような中、外国の寄贈によって、よつや

森林レンジャーへの河川水質情報の提示

く自らの手で機器分析が行えるようになつた。

しかし、機器を扱う技術者の養成はなされない。結果は出てくるものの、それが正しい分析値であるかの評価がなされない。水質の評価項目は多くあるが、理論的に矛盾した結果が生じても、再検討されることがないのが現状だ。

■大学やNPOとの連携  
 今年から、西部アラカン山脈に位置し、自然が豊かで焼き畑農業が続くチン州、中央部の古都マンダレー、東部アン高原に位置し、英国植民地時代から避暑地として賑わうインレー湖を訪れ、それぞ

れ地方大学やNPOと連携して湖沼と河川水質調査を行い、基礎知識を授けている。また、平地部の孤児院では地下水が利用され、その状態を報告している。基本的に地下水と未開発地域の河川水質は良好である。

重要なことは、地元の人たちに科学的な情報を正確に伝えて、保全の意識を高めることである。他方、観光地化が進んだインレー湖では大規模な浮き煙が展開され、トマトを大量生産している。驚くことにミャンマー産ではなく、品種改良された中国産が使われ、気候が異なるミャンマーでの生産のために同じ中国産の化学肥料や

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください  
 TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040  
 keizai@saitama-nd.co.jp

農業が大量に撒かれる。収益の大部分が中国に行きわたるシステムが出来上がり、湖の水質は悪化する。

一つした悪循環を断つため、先ず地元の人に正しい水質情報と科学的知見を授ける。これまで地元の問題と関わりを持てなかつた地方大学も協力する。

### ■大手銀行にも支援要請

活動はフェイスブックで周知され賛同者が増えている。ヤンゴンに同国最大のカンボウザ銀行本店があり、社会活動支援の基金がある。しかし、使途が不明である場合が多く、十分機能していない。自国民による自国のレベル向上として正しい水質情報の普及のために、同銀行の最高顧問に支援を直談判する。採用されれば同国初の水質保全事業である。